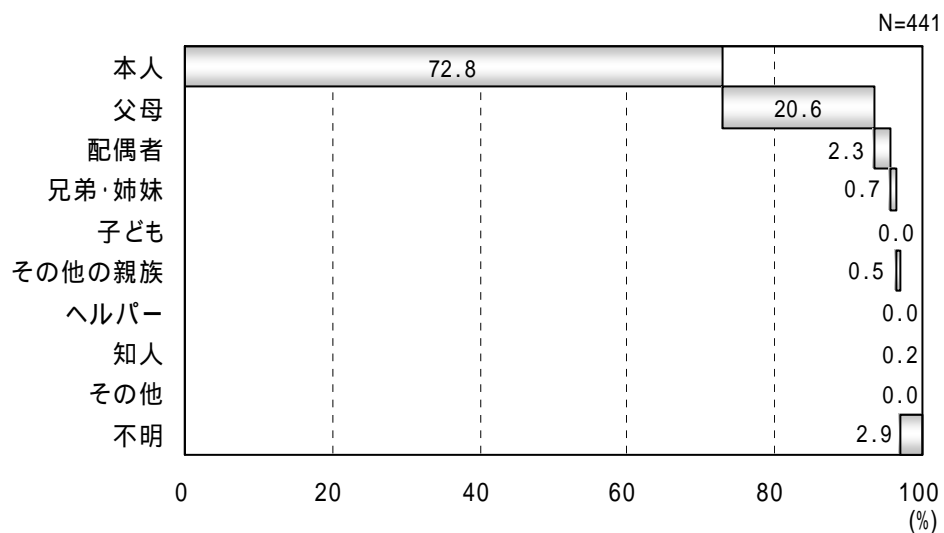


3 . 障害者等

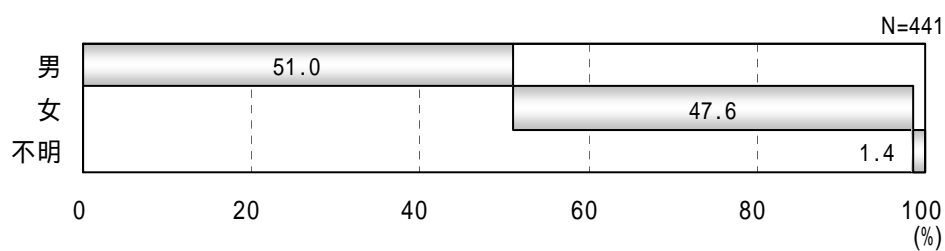
問0 回答者

調査票への記入者については、「本人」(72.8%)が大部分を占めるが、「父母」(20.6%)というのも2割はみられる。



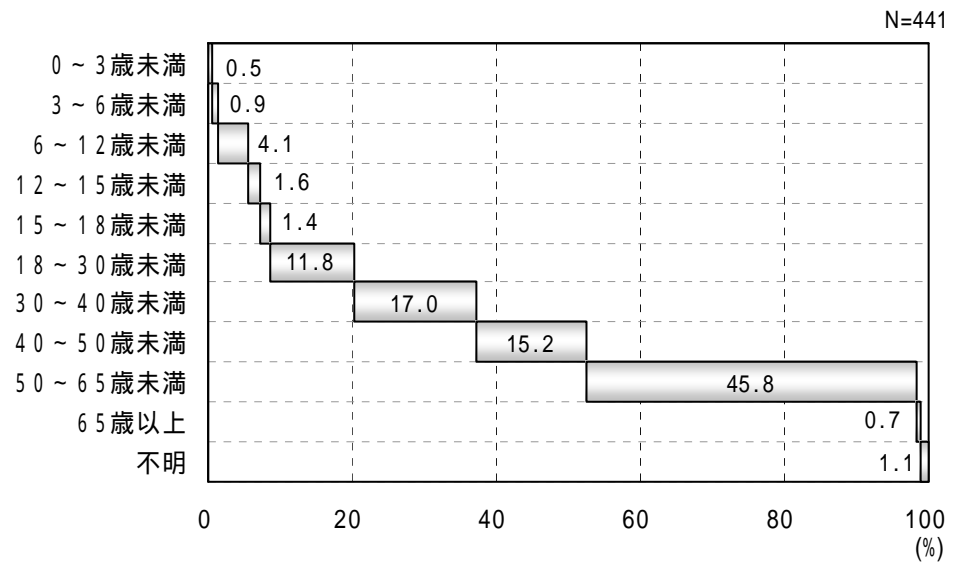
問1 性別

回答者の性別は、「男」(51.0%)が「女」(47.6%)をやや上回っている。



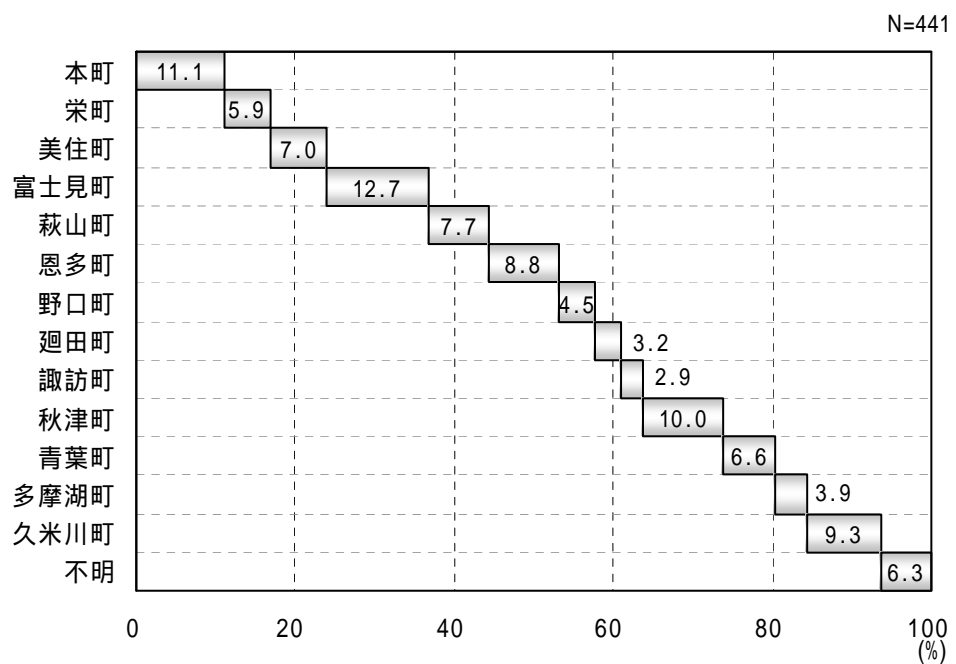
問2 年齢

回答者の年齢は、「50～65歳」(45.8%)が最も多く半数近くを占め、小学生以下は5%強、65歳以上の高齢者は1%不足と少数である。



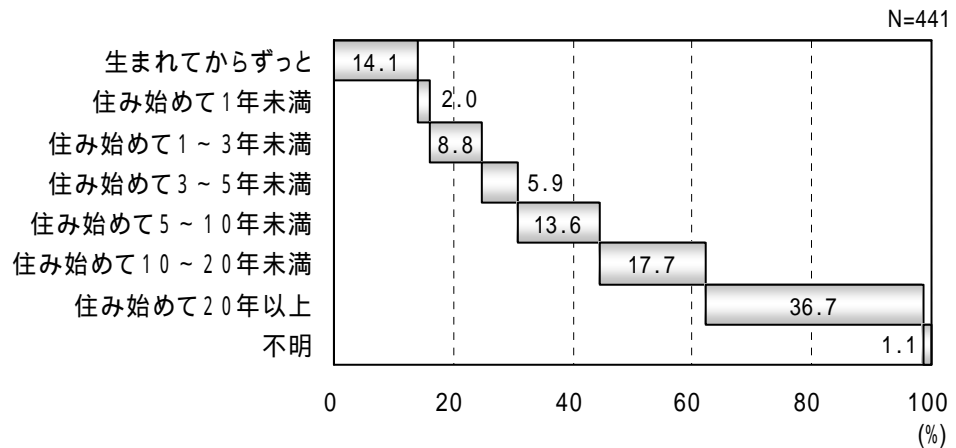
問3 居住地

回答者の居住地は「富士見町」が12.7%で、次いで「本町」(11.1%)、「秋津町」(10.0%)の順となっている。



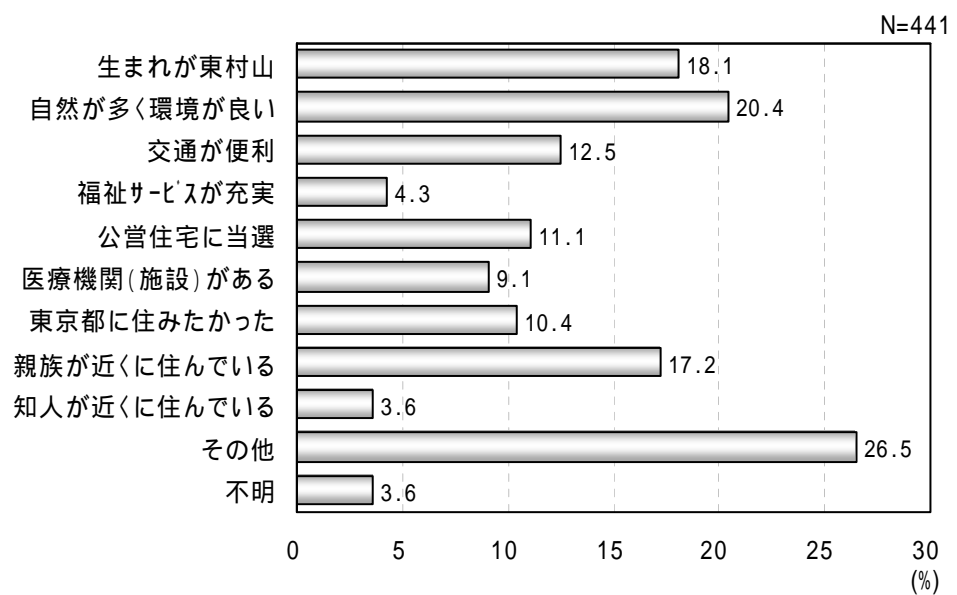
問4 居住年数

回答者の居住年数では「住み始めて20年以上」(36.7%)という居住期間が長い人が最も多く、次いで「住み始めて10年~20年」(17.7%)となっており、10年以上の居住者が過半数を占める。



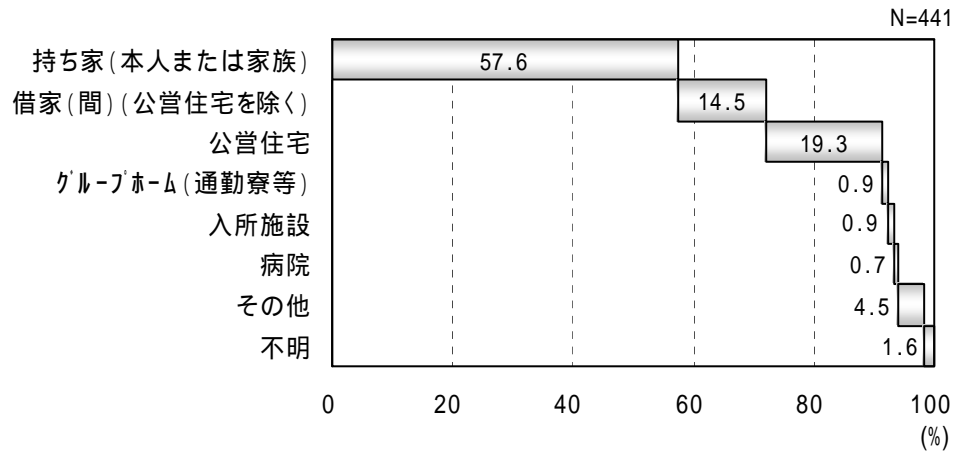
問5 住み始めた理由

住み始めた理由では「その他」(26.5%)が最も多く、その内容は多彩であるがその中で比較的多いのは、通勤や職場のとの関係といった“仕事”との関係や“結婚”によるものや、子どもの場合には“親を選んだから”という回答も比較的多くみられる。具体的な選択肢でみると「自然が多く環境が良い」(20.4%)が最も多く、次いで「生まれが東村山」(18.1%)、「親族が近くに住んでいる」(17.2%)となっている。



問6 住まいの種類

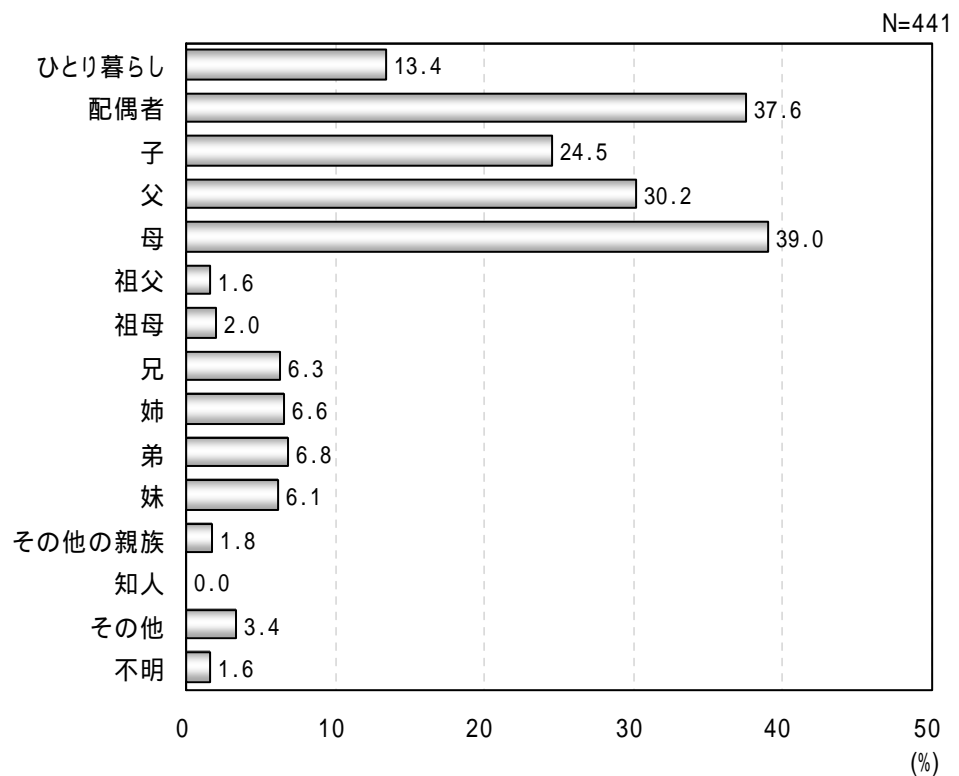
「持ち家」(57.6%)が半数を超え、次いで「公営住宅」(19.3%)、「借家(間)」(14.5%)となっている。



問7 一緒に生活している人

一緒に生活している人では「母」(39.0%)が最も多く、次いで「配偶者」(37.6%)となっている。

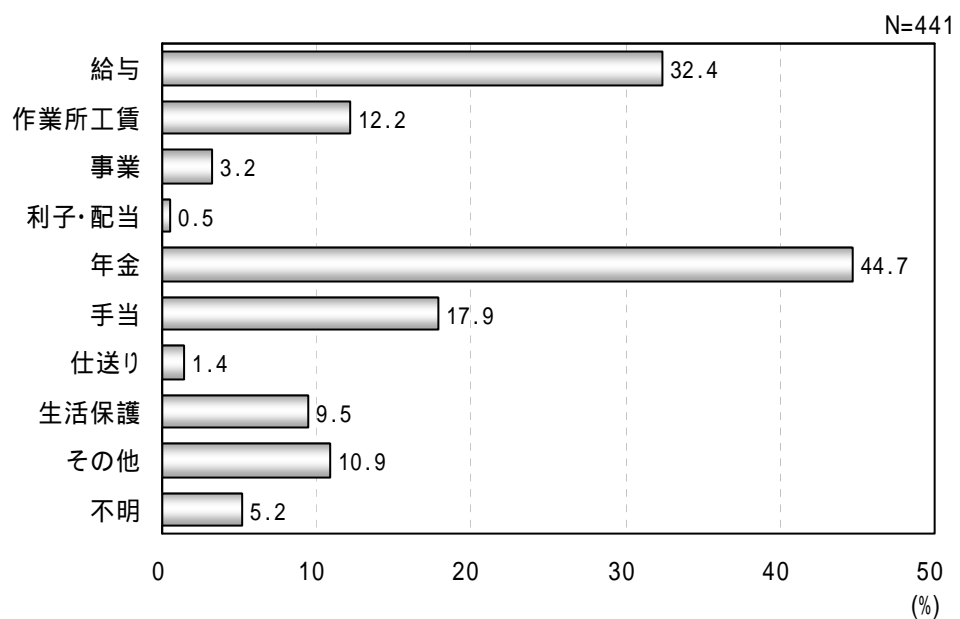
年齢別にみても、50歳以上になると「配偶者」の割合が高いものの、30歳代や40歳代では父や母といった“両親”の占める割合が最も高くなっている。



	合計	0-3歳未 満	3-6歳未 満	6-12歳 未満	12-15 歳未満	15-18 歳未満	18-30 歳未満	30-40 歳未満	40-50 歳未満	50-65 歳未満	65歳以上	不明
合計	441	2	4	18	7	6	52	75	67	202	3	5
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ひとり暮らし	59	-	-	-	-	-	4	10	8	37	-	-
	13.4	-	-	-	-	-	7.7	13.3	11.9	18.3	-	-
配偶者	166	-	-	-	-	1	1	17	24	122	-	1
	37.6	-	-	-	-	16.7	1.9	22.7	35.8	60.4	-	20.0
子	108	1	-	-	-	-	1	12	21	70	2	1
	24.5	50.0	-	-	-	-	1.9	16.0	31.3	34.7	66.7	20.0
父	133	2	3	16	7	3	38	31	24	7	1	1
	30.2	100.0	75.0	88.9	100.0	50.0	73.1	41.3	35.8	3.5	33.3	20.0
母	172	2	4	18	7	5	46	36	28	22	1	3
	39.0	100.0	100.0	100.0	100.0	83.3	88.5	48.0	41.8	10.9	33.3	60.0
祖父	7	-	-	2	1	-	3	1	-	-	-	-
	1.6	-	-	11.1	14.3	-	5.8	1.3	-	-	-	-
祖母	9	-	-	3	2	-	2	2	-	-	-	-
	2.0	-	-	16.7	28.6	-	3.8	2.7	-	-	-	-
兄	28	-	1	4	1	3	7	4	3	5	-	-
	6.3	-	25.0	22.2	14.3	50.0	13.5	5.3	4.5	2.5	-	-
姉	29	1	1	7	4	-	11	1	3	1	-	-
	6.6	50.0	25.0	38.9	57.1	-	21.2	1.3	4.5	0.5	-	-
弟	30	-	2	2	2	1	10	4	5	4	-	-
	6.8	-	50.0	11.1	28.6	16.7	19.2	5.3	7.5	2.0	-	-
妹	27	-	1	1	2	2	11	5	1	4	-	-
	6.1	-	25.0	5.6	28.6	33.3	21.2	6.7	1.5	2.0	-	-
その他の親族	8	-	-	-	-	-	-	3	3	2	-	-
	1.8	-	-	-	-	-	-	4.0	4.5	1.0	-	-
知人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	15	-	-	-	-	-	-	2	1	12	-	-
	3.4	-	-	-	-	-	-	2.7	1.5	5.9	-	-
不明	7	-	-	-	-	-	1	1	1	3	-	1
	1.6	-	-	-	-	-	1.9	1.3	1.5	1.5	-	20.0

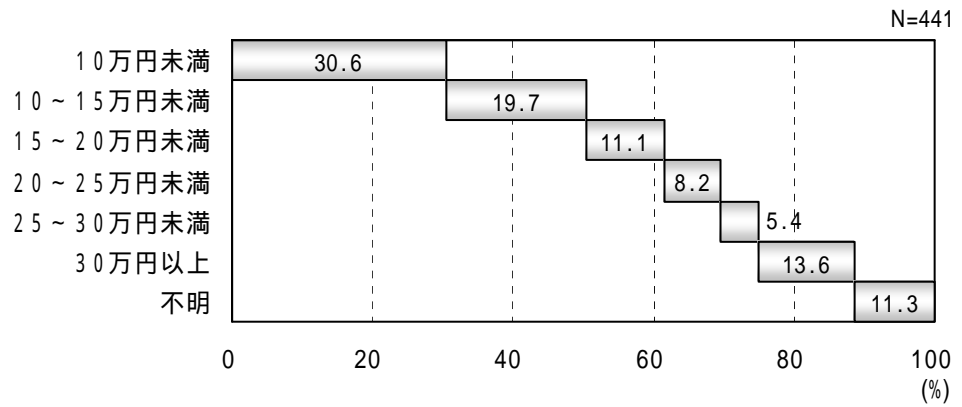
問8 収入の状況

「年金」(44.7%) が半数近くを占め、次いで「給与」(32.4%) となっている。



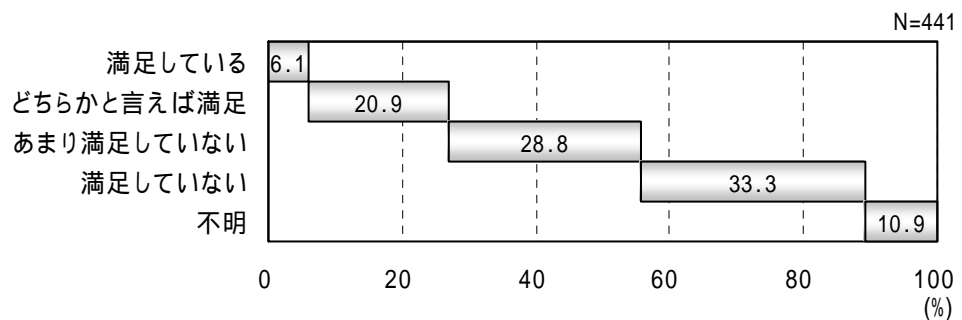
問9 1ヶ月当たりの収入の合計

「10万円未満」(30.6%)が最も多く、次いで「10～15万円未満」(19.7%)、「15～20万円未満」(11.1%)で、20万円未満で全体の6割以上を占める。



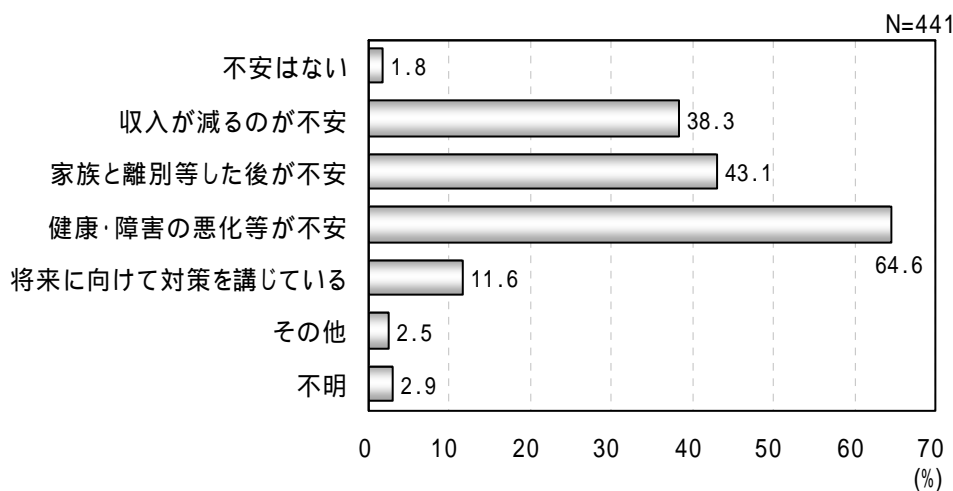
問10 現在の収入に対する満足度

「満足していない」(33.3%)が最も多く、次いで「あまり満足していない」(28.8%)となっており、不満を持つ人が6割を超える。



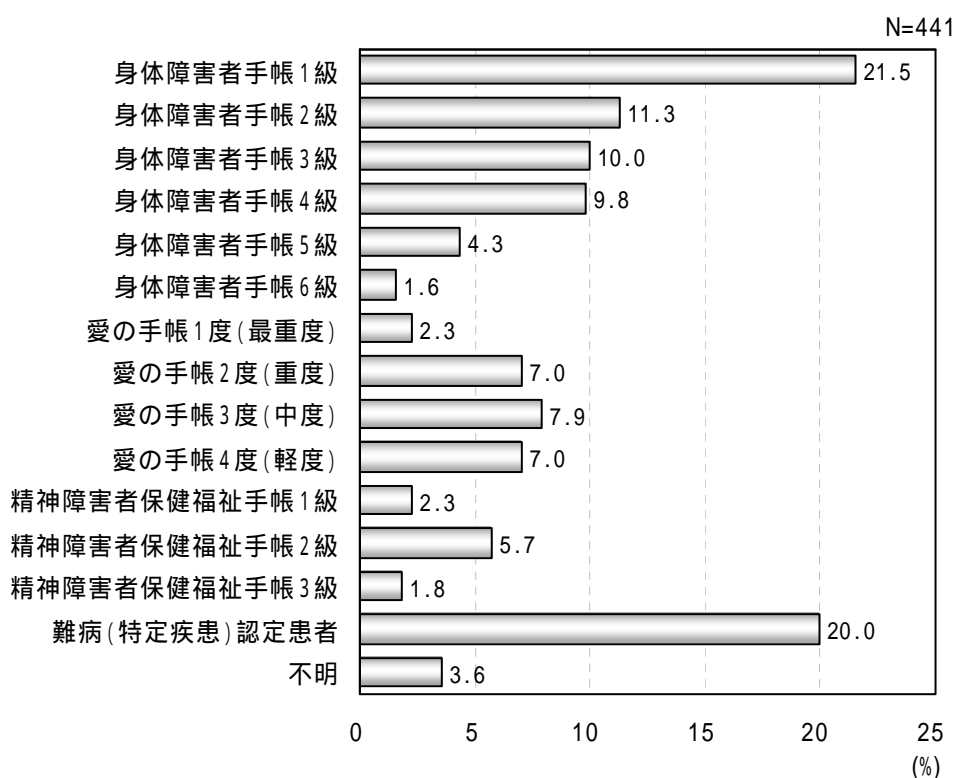
問 11 将来の生活について

将来の生活に「不安はない」(1.8%)はわずかであり、最も多いのが「健康・障害の悪化等が不安」(64.6%)で、次いで「家族と離別等した後が不安」(43.1%)、「収入が減るのが不安」(38.3%)と、ほとんどの人がなんらかの不安を抱えている。



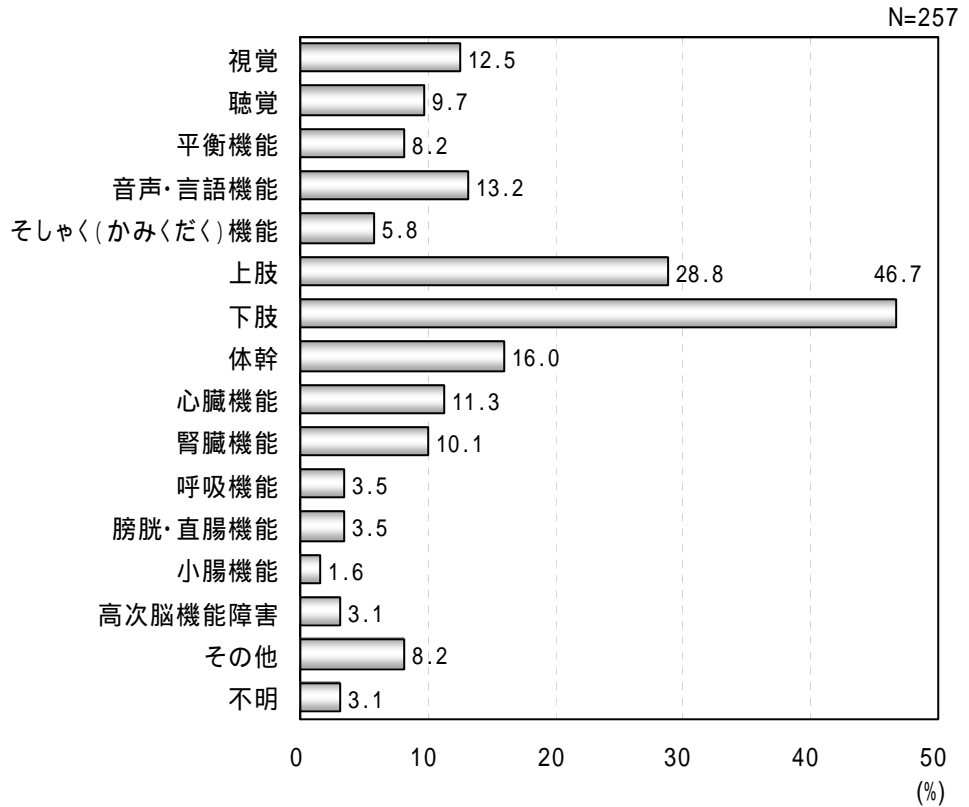
問 12 障害等の程度

今回の回答者でみると、障害の種類では、「身体障害者」が 58.5%、「知的障害者」が 24.2%、「精神障害者」が 9.8%、「難病（特定疾患）認定患者」が 20.0%となっている。また、各障害の程度では、身体障害者では「1級」(21.5%)、知的障害者では「3度（中度）」(7.9%)、精神障害者では「2級」(5.7%)が最も多い。



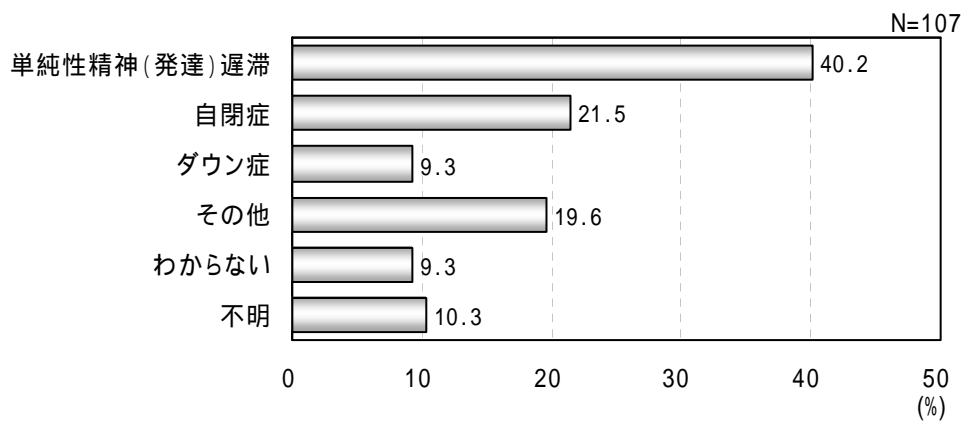
問 12 - 1 身体障害者の障害の内容

障害の内容では「下肢」(46.7%)が最も多く、次いで「上肢」(28.8%)、「体幹」(16.0%)となっており、肢体不自由関係が最も多い。



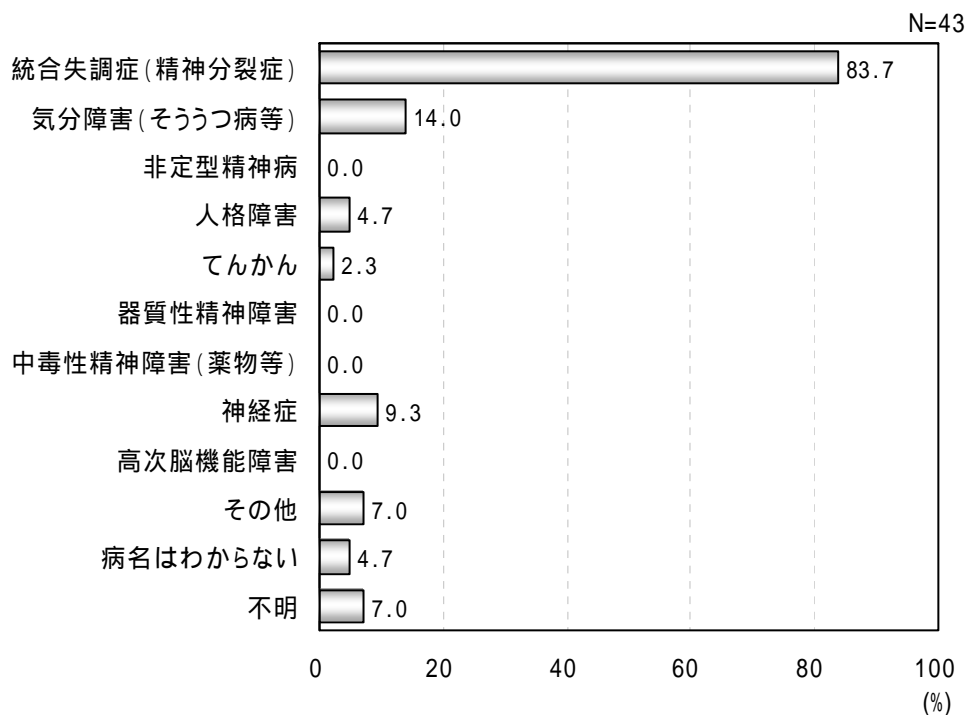
問 12 - 2 知的障害者の障害の状況

障害の状況では「単純性精神(発達)遅滞」(40.2%)が最も多く、次いで「自閉症」(21.5%)となっている。



問 12 - 3 精神障害者の障害の状況

障害の状況では「統合失調症（精神分裂症）」（83.7%）が大半を占めている。

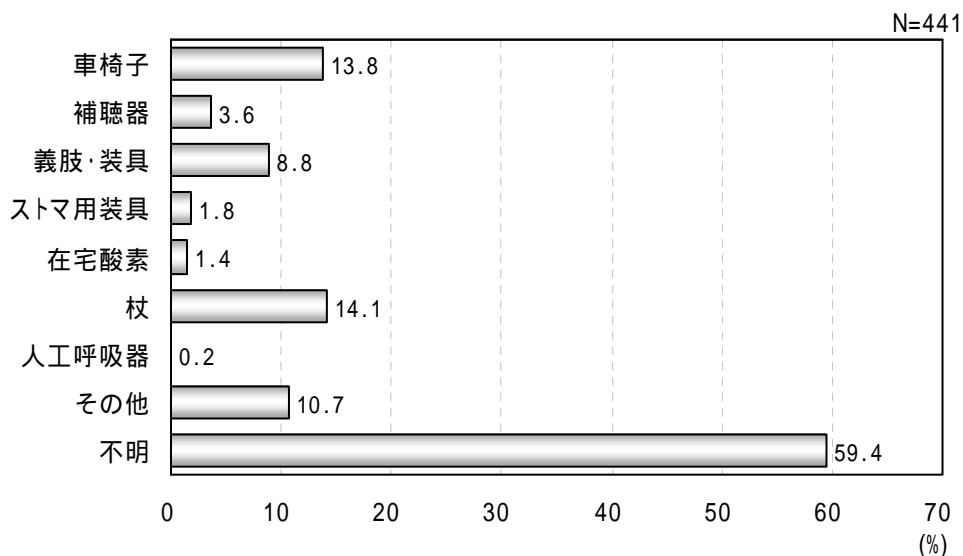


問 12 - 4 難病 (特定疾患) 認定患者の病名

具体的な病名の記入があったものの中では、「潰瘍性大腸炎」9件、「脊髄小脳変性症」7件、「全身性エリテマトーデス」5件といったものが多い。

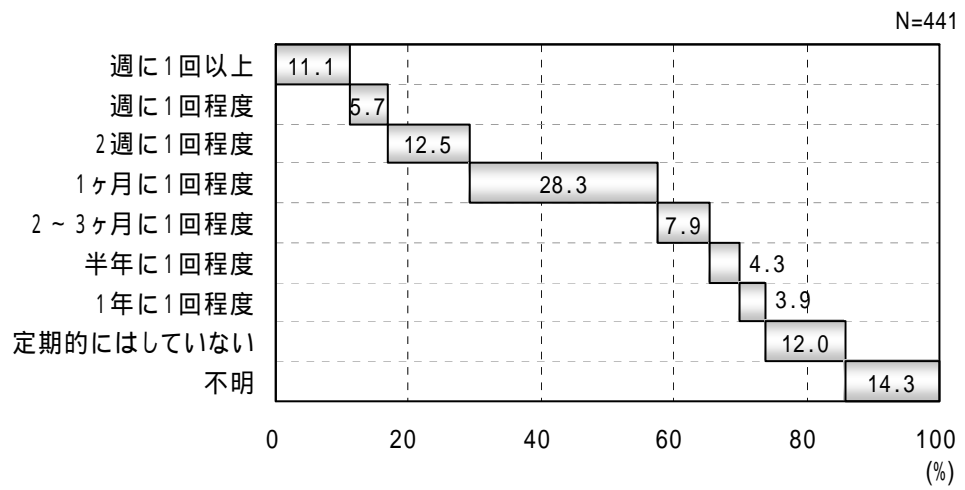
問 13 普段使用している補装具・補助具

「不明」(59.4%)の回答が6割を占めているが、具体的な選択肢の中では「杖」(14.1%)、「車椅子」(13.8%)が主要なものとなっている。



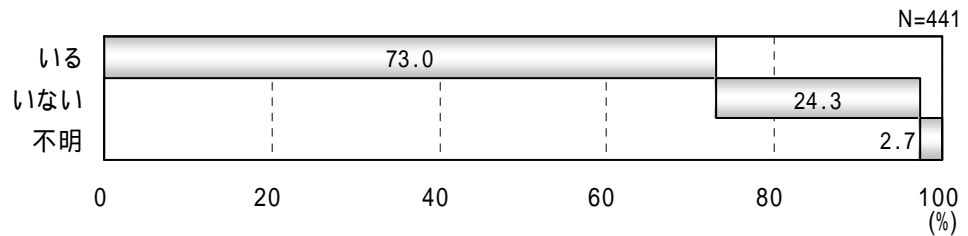
問 14 障害等に伴う通院・リハビリ等の頻度

「1ヶ月に1回程度」(28.3%)が最も多く、次いで「2週間に1回程度」(12.5%)となっている。



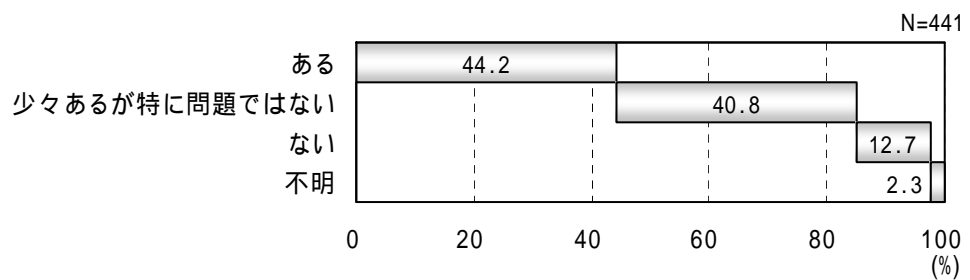
問 15 かかりつけ医の有無

「いる」(73.0%)という回答が7割を超えるが、「いない」という回答も4人に1人の割合でいる。



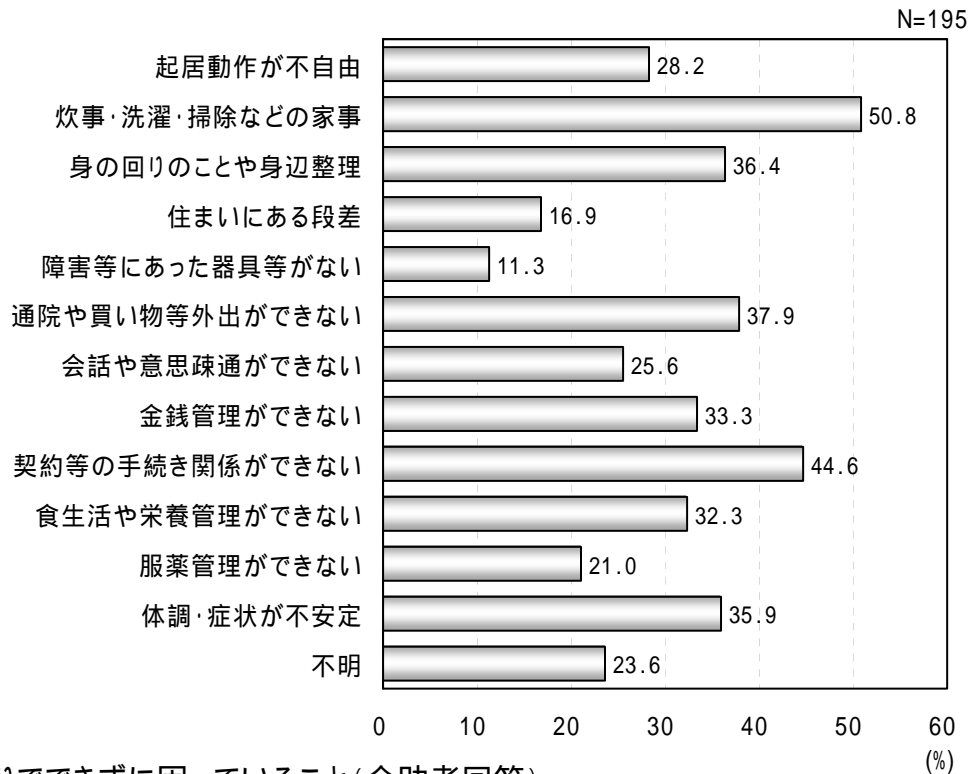
問 16 日常生活での障害による支障

「ある」(44.2%)が半数近くを占めているが、「少々あるが特に問題はない」(41.8%)と「ない」(12.7%)を合わせた半数以上は特に問題なく日常生活は過ごせている。



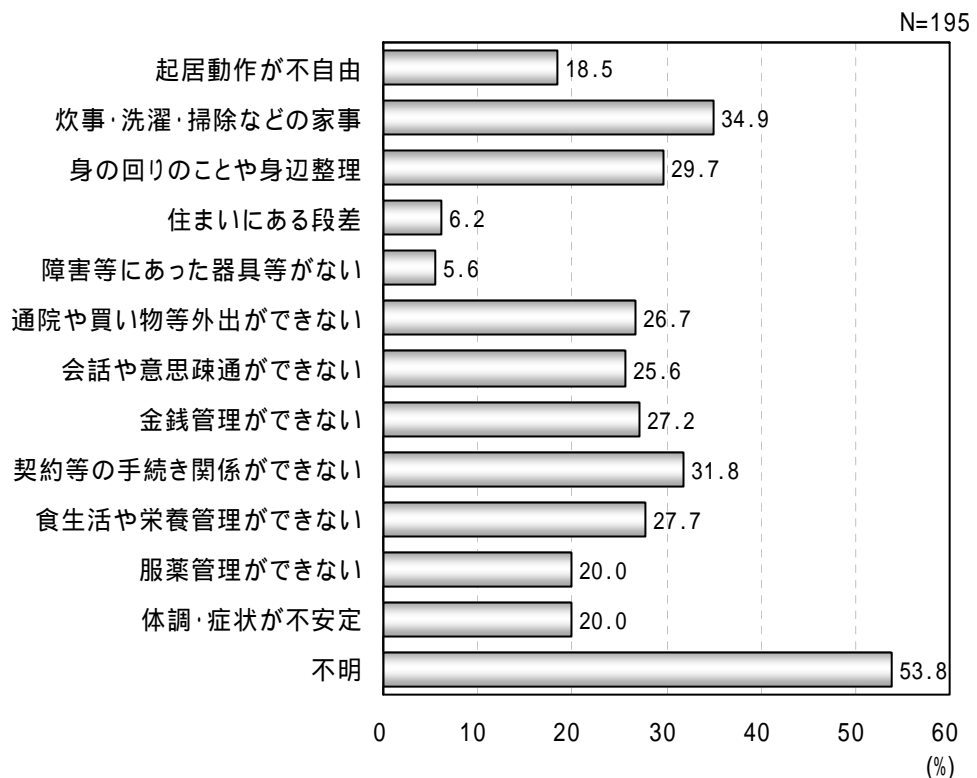
問 16 - 1 ひとりでできずに困っていること(本人回答)

「炊事・選択・掃除などの家事」(50.8%)が最も多く、次いで「契約等の手続き関係ができない」(44.6%)となっている。



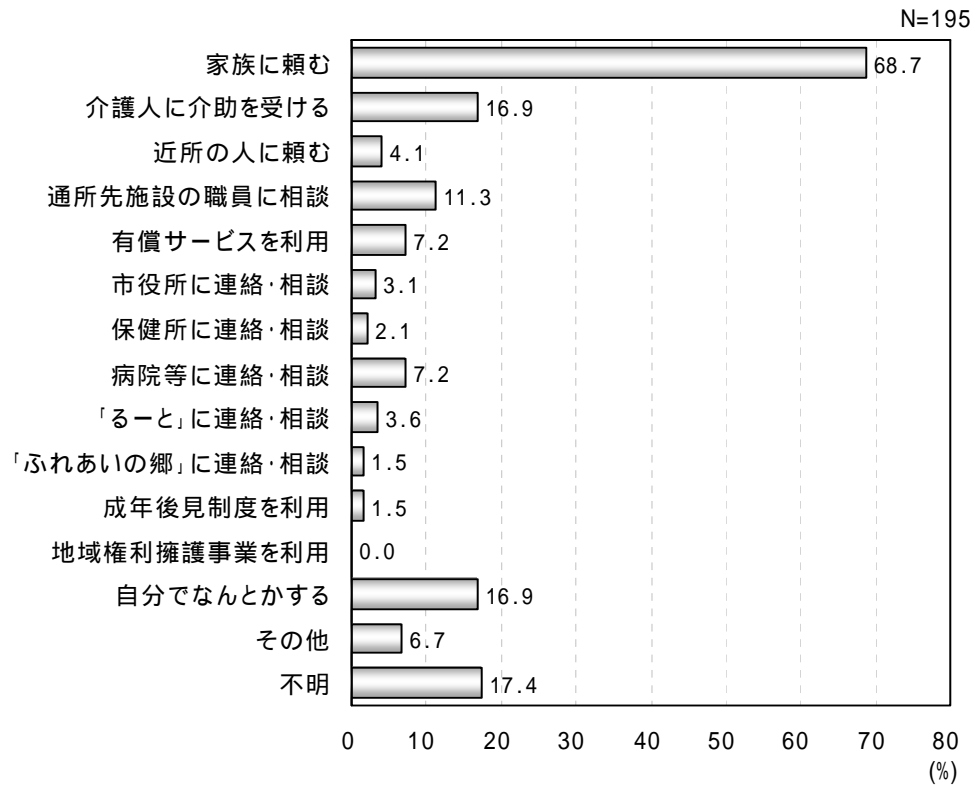
問 16 - 1 ひとりでできずに困っていること(介助者回答)

本人の回答と大きな傾向は変わらず、最も多いのは「炊事・選択・掃除などの家事」(34.9%)で、次いで「契約等の手続き関係」(31.8%)となっている。



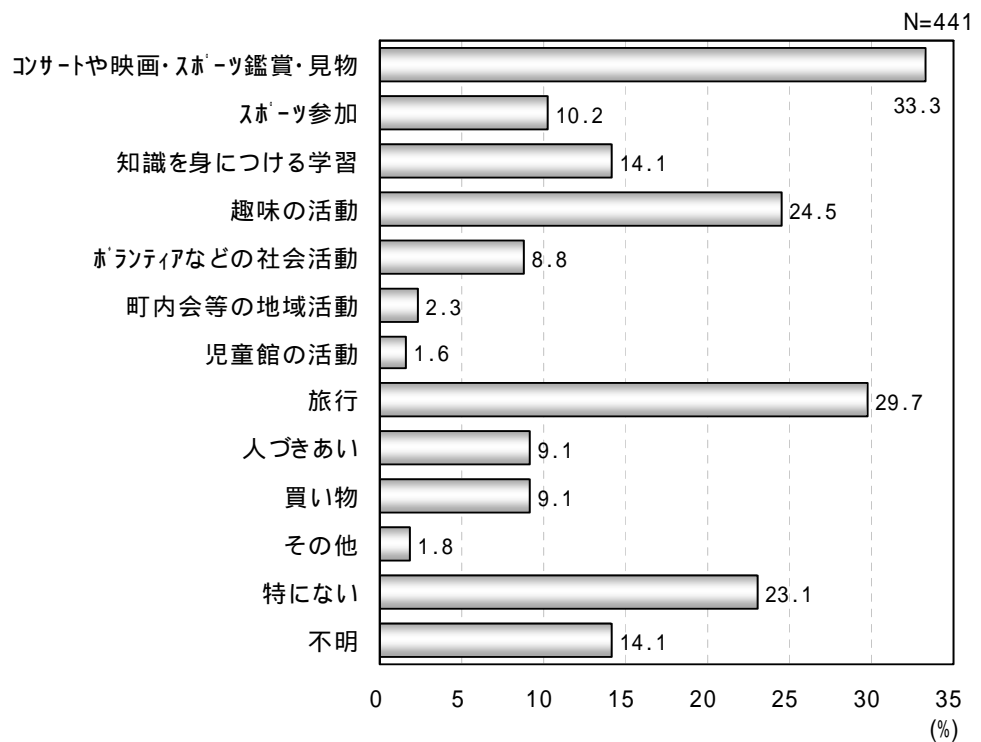
問 16 - 2 困ったときの対応

「家族」(68.7%)のウェイトが極端に高くなっている。



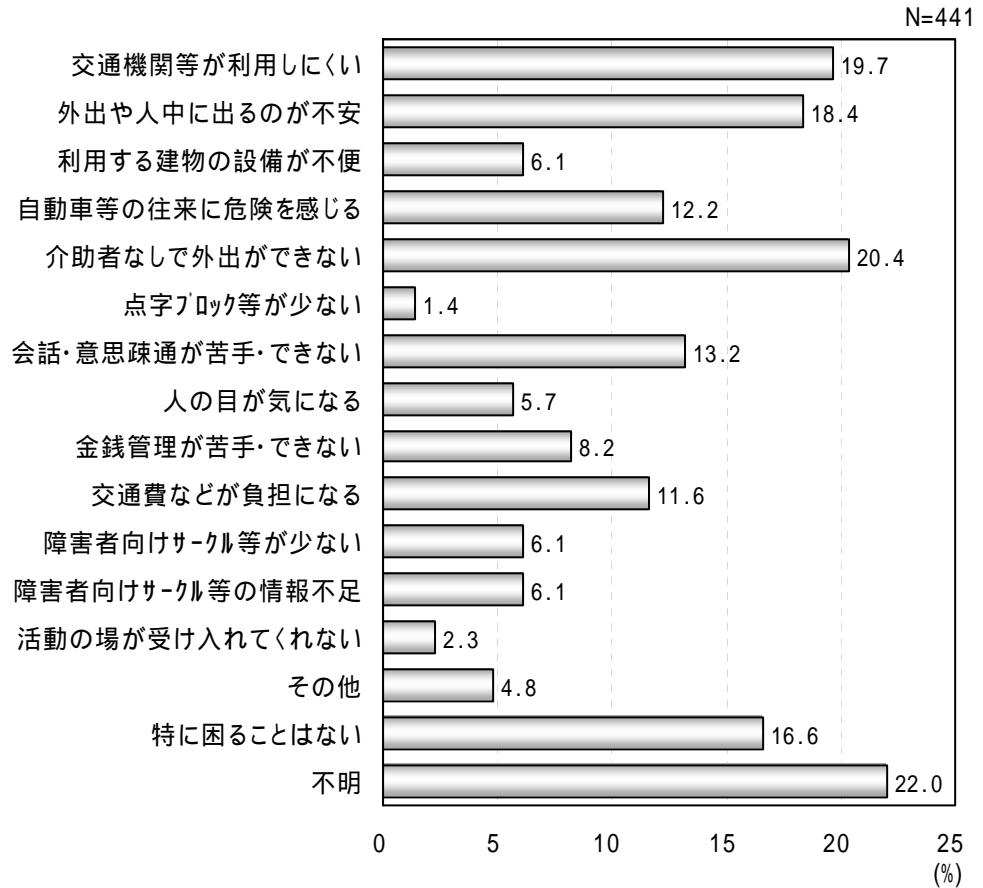
問 17 参加してみたい活動

「コンサートや映画・スポーツ鑑賞・見物」(33.3%)、「旅行」(29.7%)、「趣味の活動」(24.5%)が参加してみた活動の上位3つとなっている。



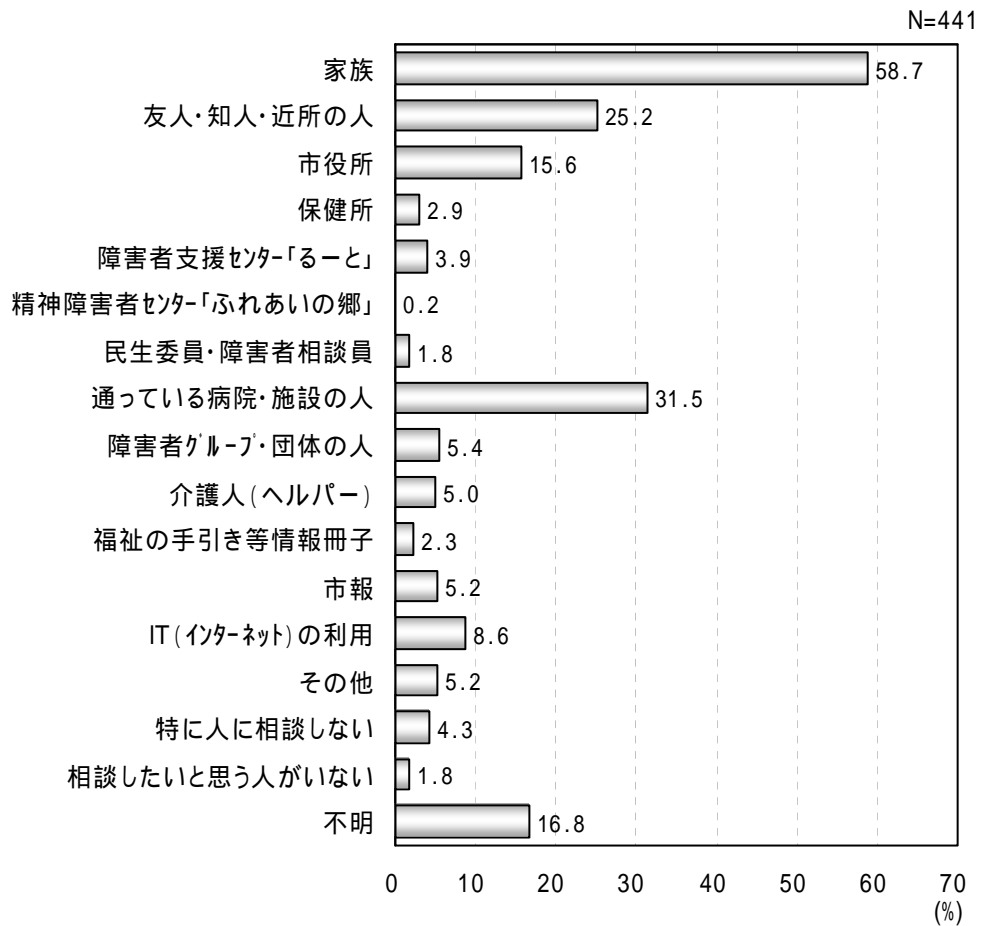
問 18 活動に参加する際の支障

「介助者無しで外出できない」(20.4%)、「交通機関等が利用しにくい」(19.7%)、「外出や人中にでるのが不安」(18.4%)といった要因がほぼ同じ割合で指摘されている。



問 19 困った時の相談先

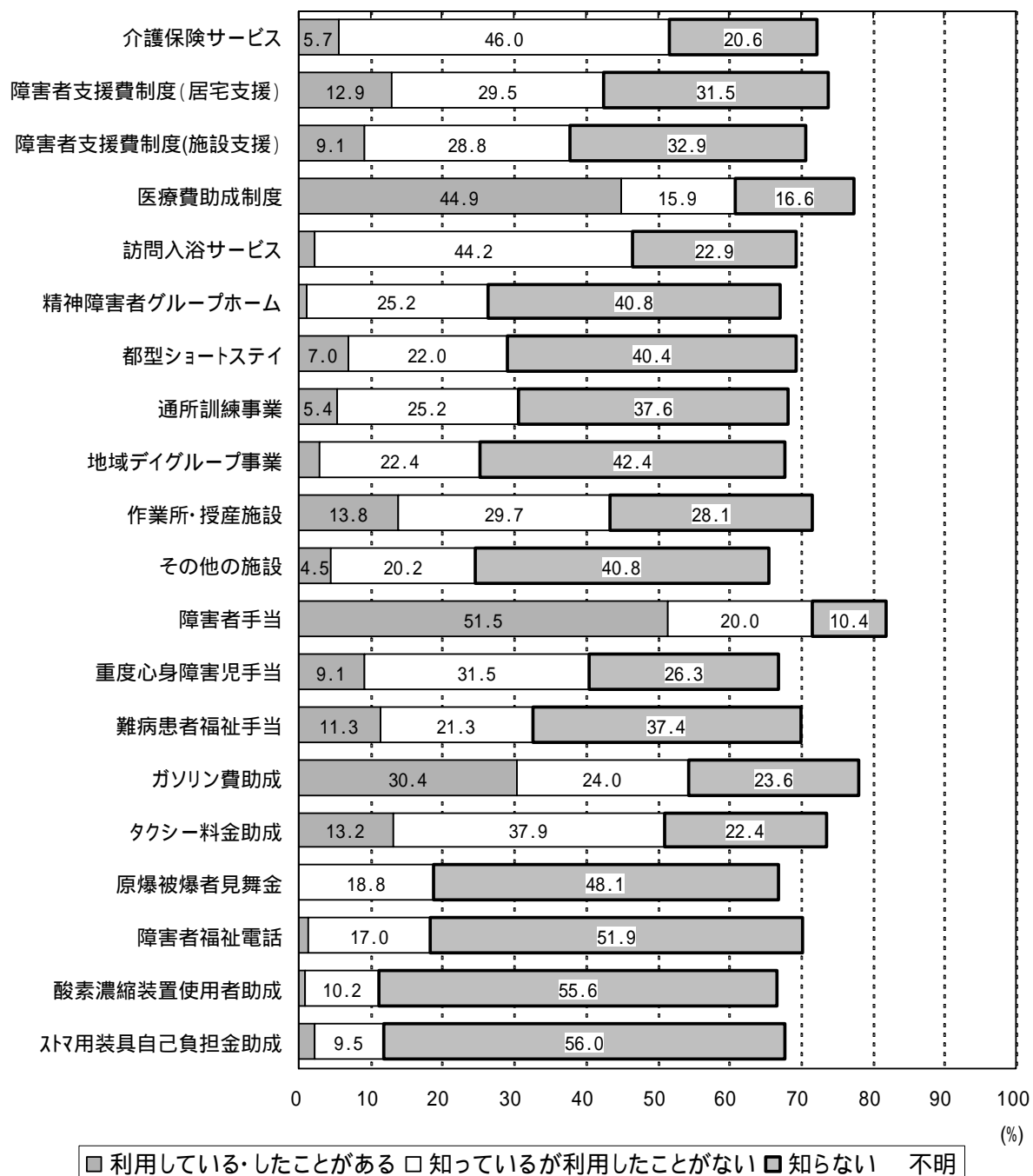
「家族」(58.7%) が最も多く、次いで「通っている病院・施設の人」(31.5%)、「友人・知人・近所の人」(25.2%) となっており、公的機関は比較的少なく、今回のアンケート対象の一つになっている「民生委員・障害者相談員」(1.8%) は極めて少なくなっている。



問 20 福祉サービスの周知度

福祉サービスの周知度は低く、利用の有無は別にして少なくとも知っているという回答が半数を超えているものは「障害者手当」「医療費助成制度」「ガソリン費助成」「介護保険サービス」「タクシー料金助成」の5つのサービスだけである。

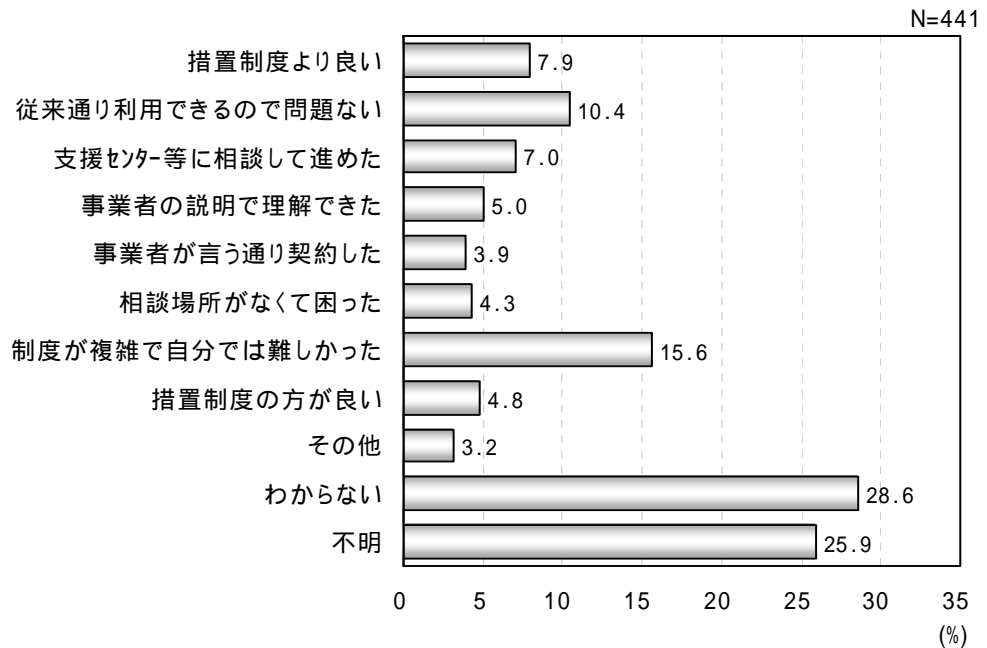
N=441



問21 契約制度の利用

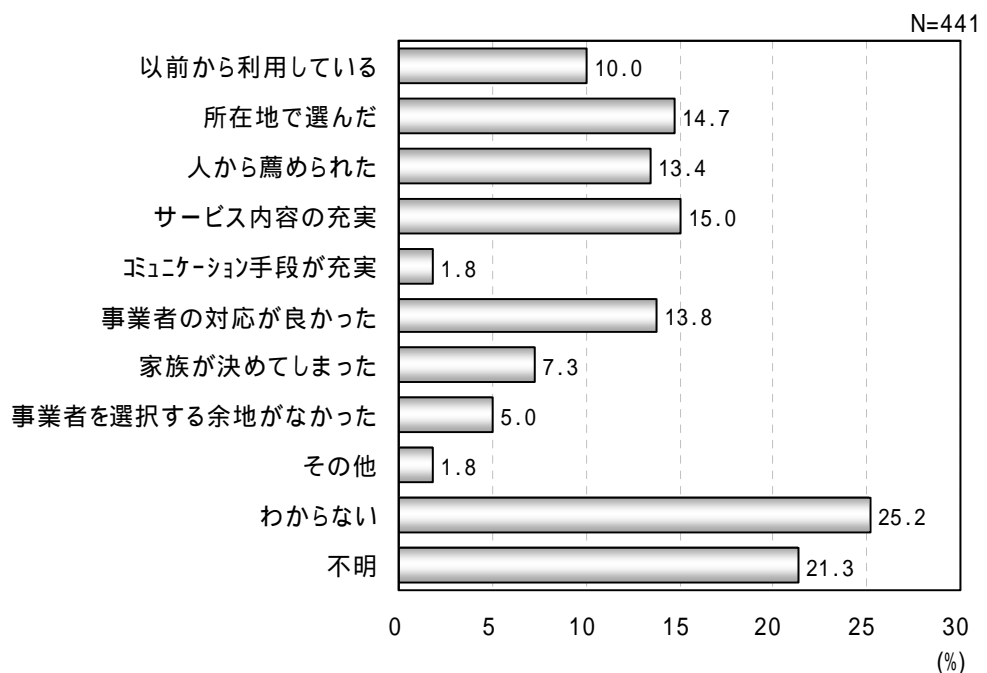
「わからない」(28.6%)、「不明」(25.9%)の回答で半数を超え、契約制度そのものに対する周知度がかなり低い状況にある。

具体的な選択肢の回答があったものの中でみると「制度が複雑で自分では難しかった」(15.6%)が最も多く、「従来通り利用できるので問題ない」(10.4%)と「措置制度より良い」(7.9%)という契約制度肯定派は2割弱である。



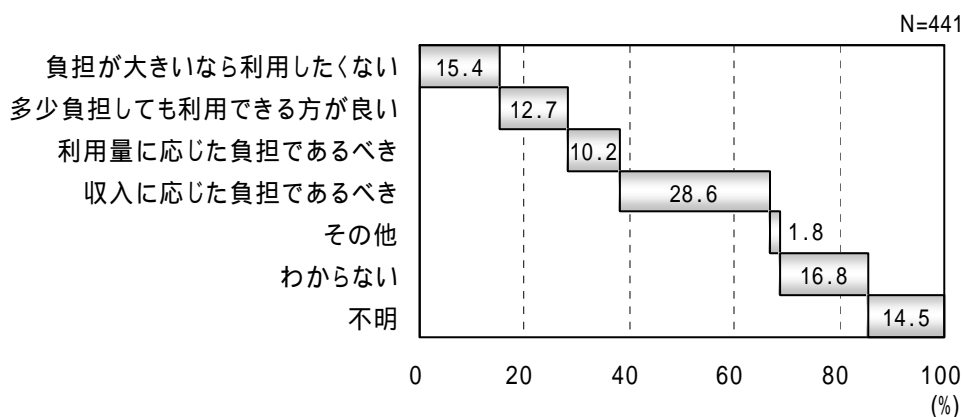
問22 事業者を選ぶ決め手になったもの

「わからない」(25.2%)、「不明」(21.3%)が半数近くを占め、また、具体的な選択肢の回答も比較的分散しており、際だった傾向はみられない。



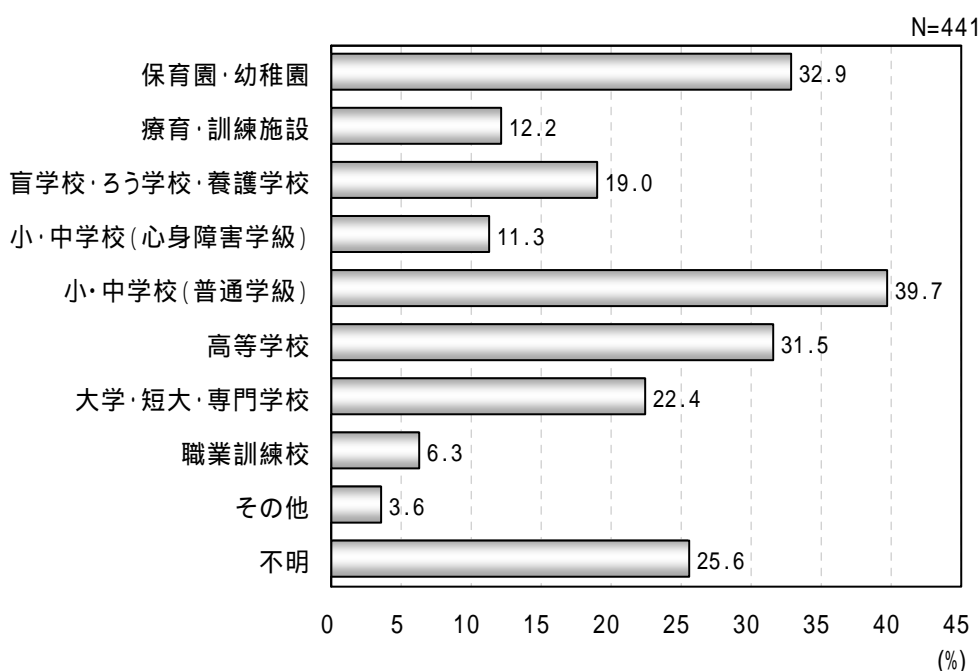
問 23 公的福祉サービスの負担について

最も多いのは「収入に応じた負担であるべき」(28.6%)となっているが、「負担が大きいなら利用したくない」(15.4%)と「多少負担しても利用できる方が良い」を比較すると、負担が増えるなら利用したくない傾向がやや強い。



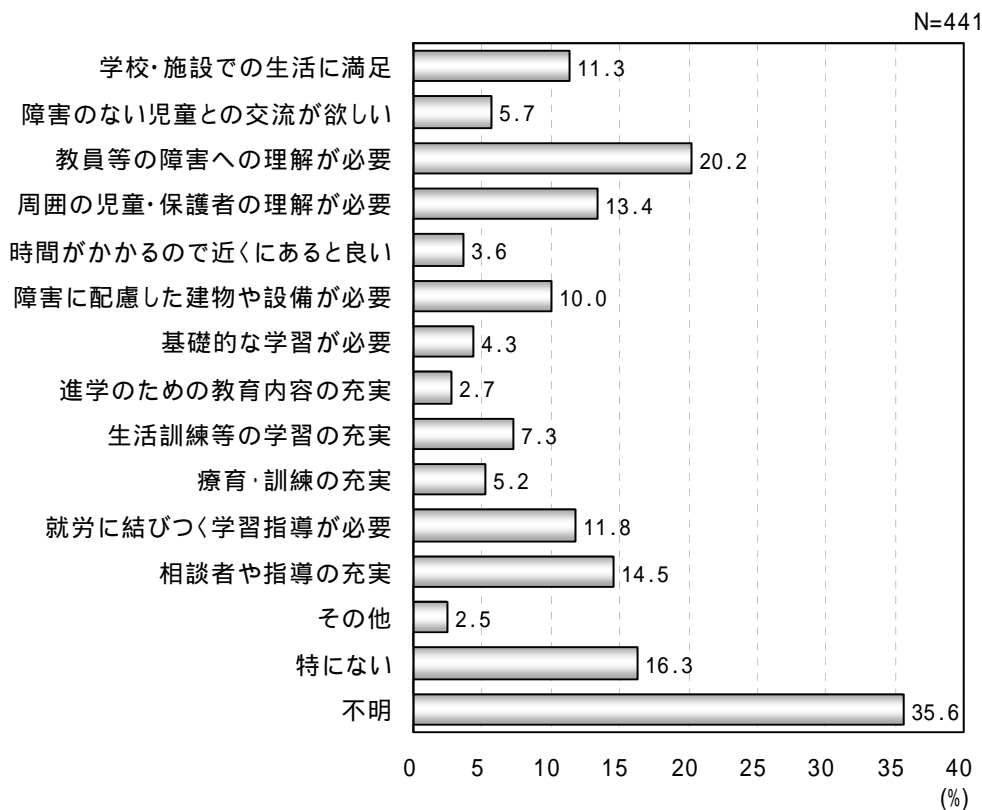
問 24 現在またはこれまでに通園・通学した施設

「小・中学校(普通学級)」(39.7%)が最も多く、次いで「保育園・幼稚園」(32.9%)、「高等学校」(31.5%)となっている。
 小・中学校の普通学級と心身障害学級との比較では普通学級が約4割に対し、心身障害学級は1割強である。
 また、「大学・短大・専門学校」(22.4%)が2割強を占めている。



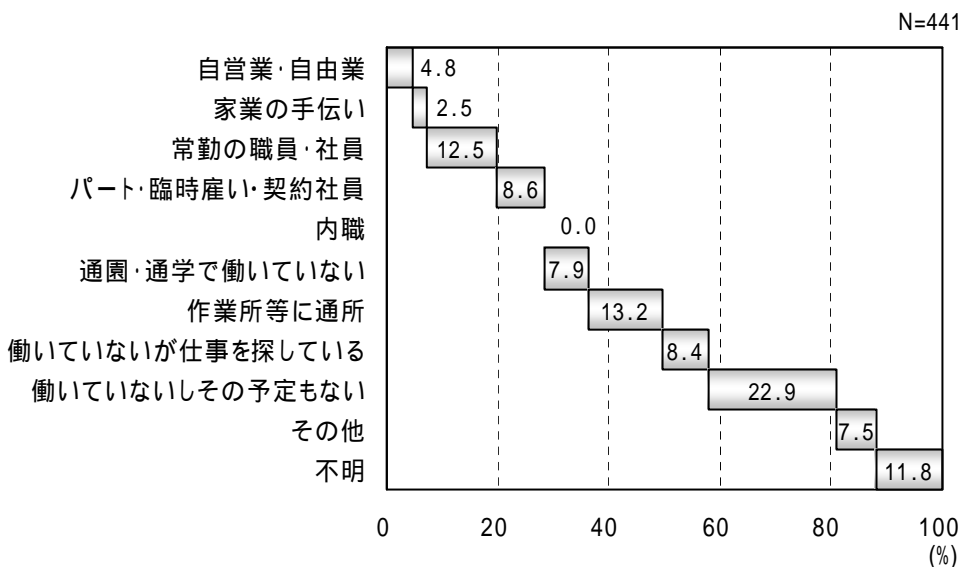
問 25 現在またはこれまでに通園・通学した施設についての評価

「教員等の障害への理解が必要」(20.2%)が最も多く、次いで「相談や指導の充実」(14.5%)、「周囲の児童・保護者の理解が必要」(13.4%)となっており、周囲の理解に対する指摘が多くなっている。



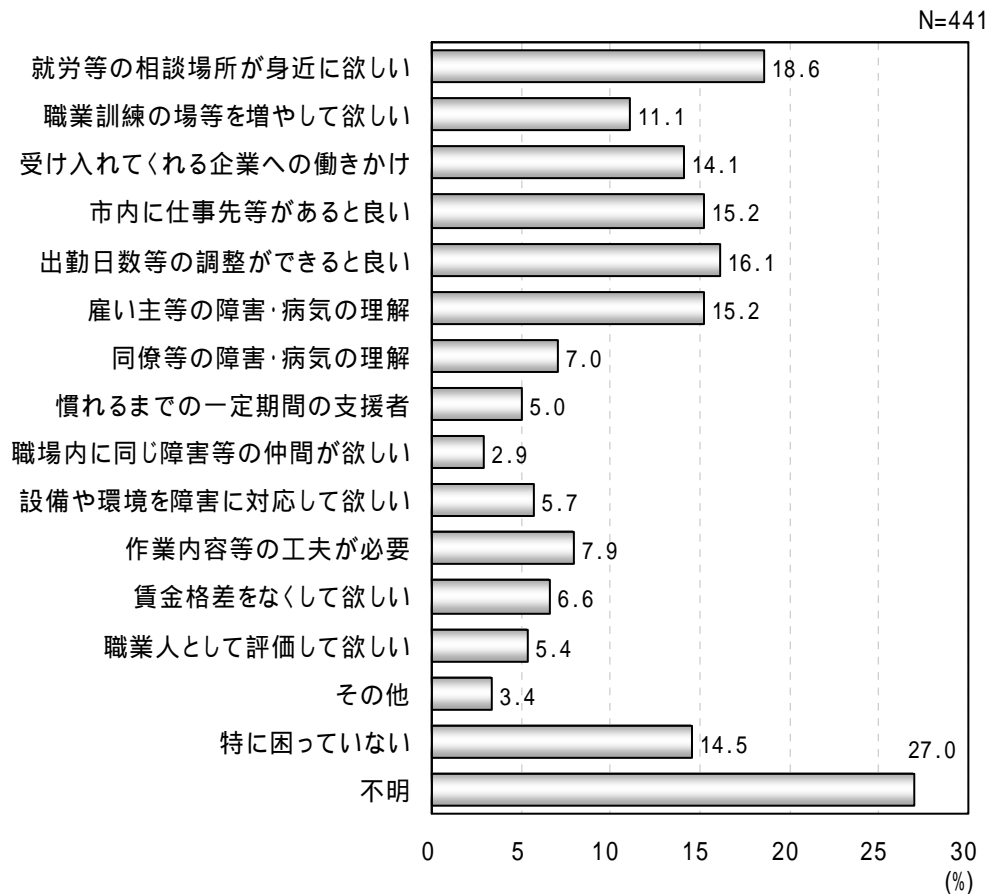
問 26 現在の就労状況

「働いていないしその予定もない」(22.9%)が最も多く、次いで「作業所等に通所」(13.2%)となっている。
 通常業務的な就労は「常勤の職員・社員」(12.5%)と「自営業・自由業」(4.8%)合わせて2割弱である。



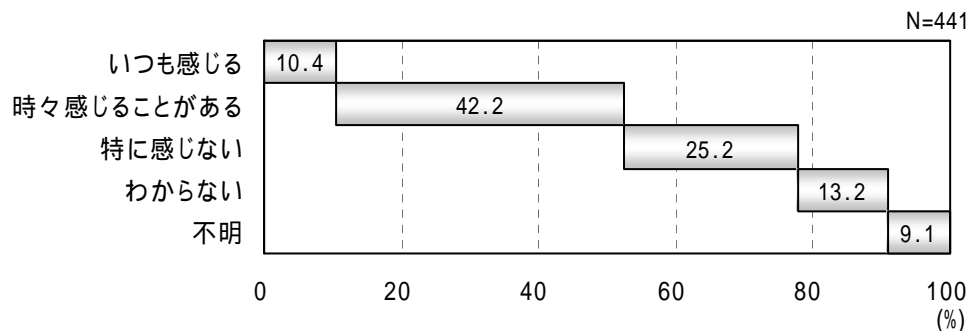
問 27 仕事・就労についての考え

「就労等の相談場所が身近に欲しい」(18.6%)、「出勤日数等の調整ができると良い」(16.1%)、「市内に仕事先等があると良い」(15.2%)「雇い主等の障害・病気の理解」(15.2%)が上位になっており、身近なところでの就業の場や相談機能が求められている。



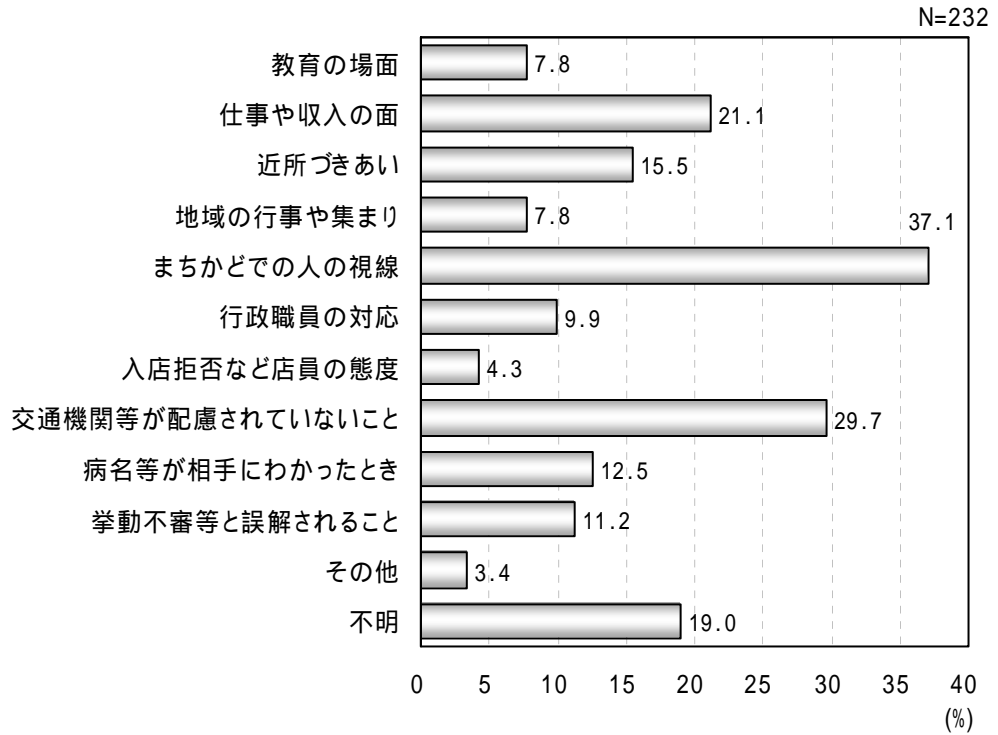
問 28 日頃の生活の中での差別や偏見等の有無

「いつも感じる」(10.4%) というのは1割であるが、「時々感じることもある」(42.2%)を合わせると半数以上が偏見や差別をなんらかの形で感じているということになる。



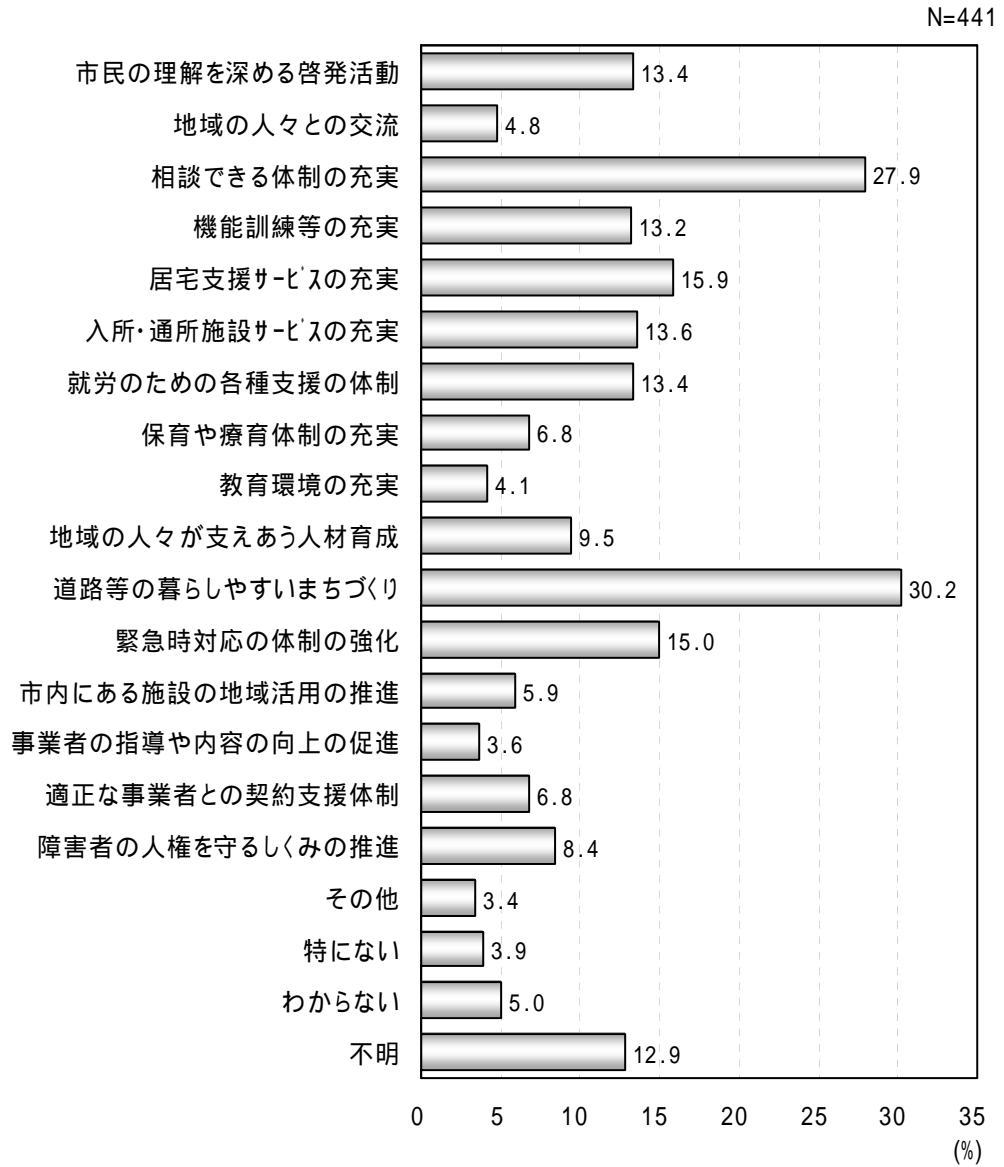
問 28 - 1 差別や偏見等を感じる時

最も多いのは「まちかどでの人の視線」(37.1%)であり、次いで「交通機関等が配慮されていないこと」(29.7%)、「仕事や収入の面」(21.1%)となっている。



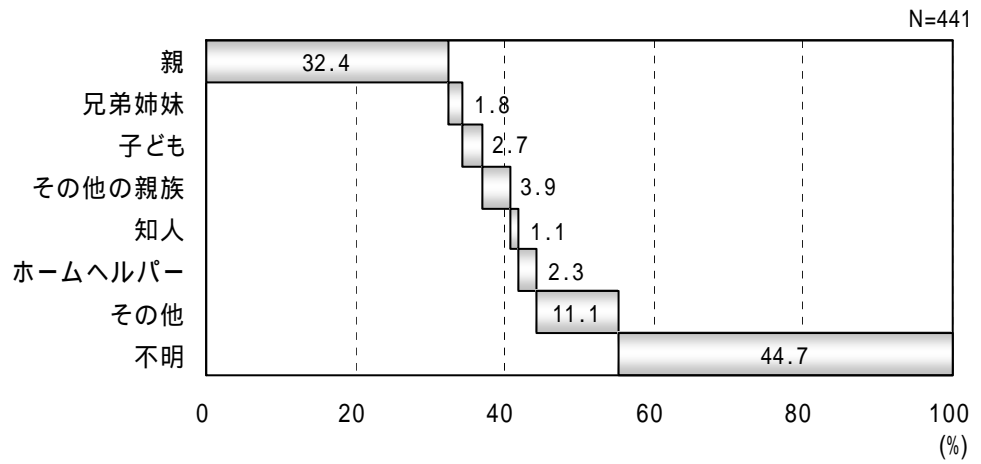
問 29 市が力を入れるべき障害者施策

「道路等の暮らしやすいまちづくり」(30.2%)というハード面と、「相談できる体制の充実」(27.9%)というソフト面それぞれが特に指摘が多い。



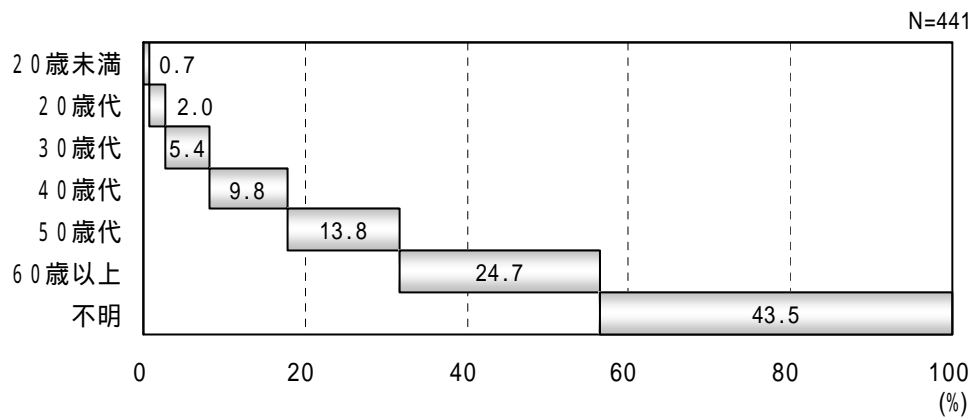
問 30 主たる介助者

「不明」(44.7%)が最も多いが、具体的な選択肢の中では「親」(32.4%)が特に多くなっている。



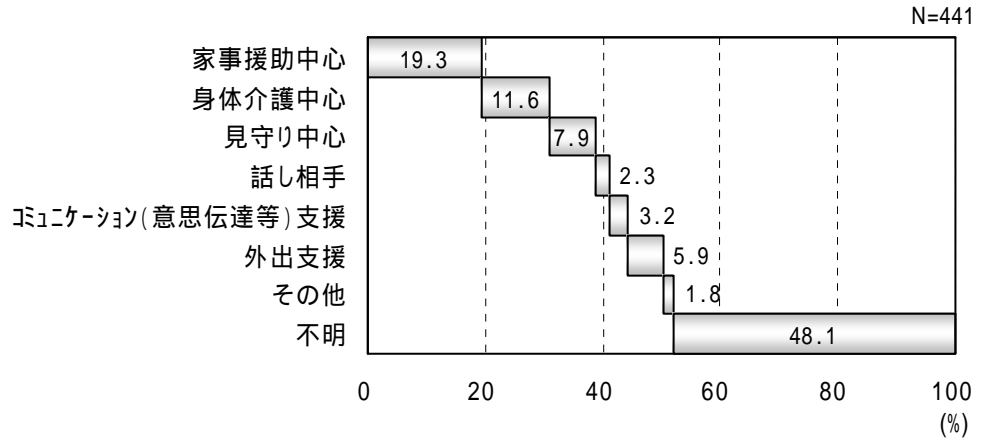
問 30 主たる介助者の年齢

年齢も「不明」(43.5%)が多いが、具体的な回答の中では「60歳以上」(24.7%)が最も多く、次いで「50歳代」(13.8%)となっており、具体的な選択があった回答の中だけみると、7割以上が50歳以上となっている。



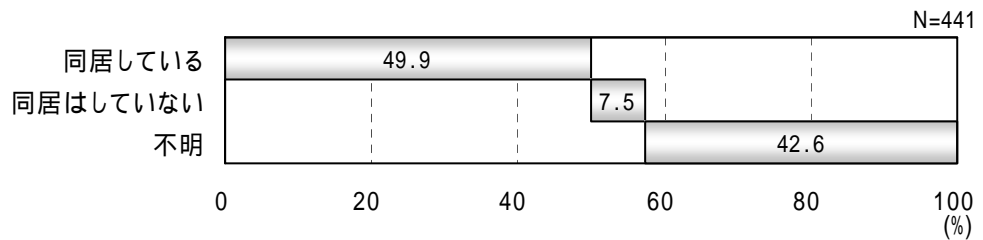
問 32 主たる介助の内容

「不明」(48.1%) が最も多いが、具体的な選択肢の中では「家事援助中心」(19.3%) が最も多く、次いで「身体介護中心」(11.6%) となっており、具体的な選択があった回答の中では、この両方で約 6 割を占める。



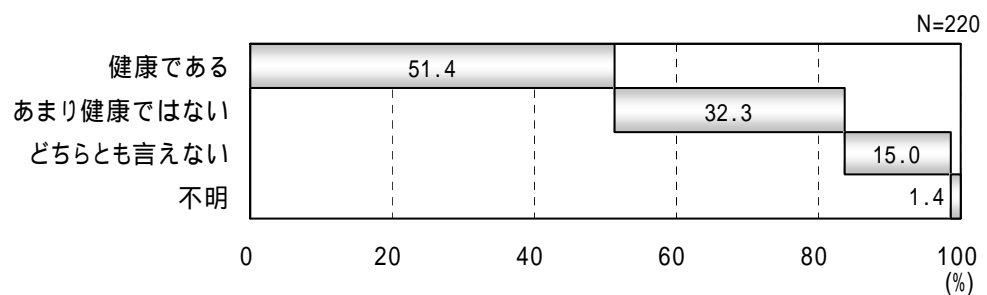
問 33 介助者との同居の有無

「不明」(42.6%) が多いため、「同居している」(49.9%) という回答はほぼ半数であるが、具体的な選択があった回答の中では約 9 割を占める。



問 33 - 1 介助者の健康状態

「健康である」(51.4%) という回答が半数を超えているが、「あまり健康ではない」(32.3%) という回答も 3 人に 1 人の割合で見られる。



問 33 介助者の就労や健康状態

「無職」(41.4%)が最も多く、「仕事に就いている」(35.5%)という回答は3人に1人程度の割合である。

また、介助者自らも「通院している」(17.7%)という回答が2割弱程度みられる。

